

# 新眼鏡 ふと驚いた 寒の星 (輝)

◆ある冬の日、視力が落ちたということで、友人が新しい眼鏡を買ってきた。その帰り道、ふいに夜空を見上げ、友人はポツリとつぶやいた。

「星ってこんなにキレイだったんだね」  
私も近眼だから、とても気持ちが分かる。  
眼鏡って魔法の道具だ。

◆だけど、良くない意味で使われる眼鏡もある。そう、色眼鏡。意味は、物事を素直に見ずに、先入観・偏見をもつて見ること。つまり心の眼鏡ともいえるだろう。

◆心の眼鏡を通して映るのは、目に見えないものがほとんど。それは、視力検査の「C」のマークを見るのと似ている。つい欠けているところに意識が向いてしまうのだ。欠点、短所、マイナス面、課題：。ただ、こうなると本当はキレイなものが見えづらくなってしまう。

◆では、眼鏡を新しく変えたらどうだろう。輝く夜空のように、今まででは、ぼんやりとしか見えなかつた、人の素敵なところが見えるようになるかもしれない。  
さあ、今日はどんな心の眼鏡をかけて出かけよう。

# 天理のことば

「よそのほこりは見えて、

内々のほこりが見えん」

（明治二十四年十一月十五日）

※ほこり：神様の意に沿わない人間の心のあり方の比喩。気付けば部屋に「ほこり」がたまるようになると、知らず知らずのうちに心にも「ほこり」がたまってしまう。